

厚生労働大臣 殿

令和4年4月21日

PEG・在宅医療学会

旧規格製品の使用が必要となりうる一部の症例についての意見

1. 減圧目的（悪性腫瘍などによるイレウス等に対して）

1) 新規格（国際規格）コネクタは現行企画に比して口径が小さく、減圧のためには不利と思われま

2. 半固形化栄養剤投与、ミキサー食投与などによる胃瘻からの栄養で、新規コネクター（IS080369-3）では注入困難が想定される患者

1) 同様に、新規格（国際規格）コネクタは現行企画に比して口径が小さく、半固形化栄養剤投与、ミキサー食投与において、注入時に力が必要となり、かつ注入時間が延長されるため、取り扱う看護職や、家庭での介護者（筋力、特に握力の低下した高齢者も多く含まれる）への負担が増すことが予想されます。

2) また、ねじ込み式のため溝に栄養剤が残りやすく、細菌感染など汚染の問題があり衛生管理について非常に神経質となるため負担が増します。

3) ねじ込み式は接続時に締めすぎると、外れない、外しづらいという不具合が起きやすく、介護者の負担が増します。また、胃瘻カテーテルが事故抜去された際に、この外れない、外しづらいということにより胃瘻カテーテル本体が抜けてしまうことが起きやすい懸念があります。

PEG・在宅医療学会 理事長

大阪市民病院機構 理事長

西口幸雄